

*** 巻 頭 言 ***

ベルヌーイとオイラー

図書委員 土木工学科 官 野 一 彦

私が専門に勉強している学問は土木工学の分野における、流体とくに水に関連する工学、これを水工学といいますが、…であります。水工学の中には河川工学、海岸工学、港湾工学、発電水力、衛生工学、海洋開発及び灌漑などがあります。水の力学的挙動を研究する学問は水力学といわれ、その運動の有無によって動水力学と静水力学とに分かれます。水力学でとくに水工学に関係のある実際上の諸問題を取り扱うことを主目的とした場合に水理学といっています。

私はこれからこの水理学の中に出て来る、二人の天才、ダニエル・ベルヌーイとレオナルド・オイラーについて、私が調べ得たかぎりの人物像を描写して学生の参考に供したいと思えます。まず最初に、この二人の天才は同時代人であり、互いに才能を認め合う親友であり、又よき競争相手でもあったようであります。二人は水理学の分野ではベルヌーイの定理、流体力学におけるオイラー的見方などの事項で有名ですが、まずなによりも18世紀におけるヨーロッパ数学界の巨峰であることであります。

ベルヌーイはベルヌーイ家という天才を多く輩出した名門の出でありました。この一家は三代のうち八人の数学者を生み、そのうち数人は群を抜いていました。彼等は又自分達の子孫を山ほどつくったが、その約半数は人並みすぐれた才能の持主で、法律学、科学、知的職業、行政、芸術などにおいて人なみすぐれ名声を博していた。第2代、第3代におけるこの一家の数学者のほとんどが、熟慮の結果数学を職業として選んだのではなくて、自分の意志に反して何か運命の糸にあやつられるように数学に漂いついたのだそうです。

ダニエル・ベルヌーイは最初、医者になったそうです。それが自分の意に反して数学に没頭した。オイラーと同じく、ダニエル・ベルヌーイは10度もフランス学士院賞を受けています。1725年(25才のとき)、ダニエルはペテルスブルグ学士院で数学教授になったが、8年後ペゼルに帰り、解剖学と植物学、最後に物理学の教授となりました。彼の数学研究では、微積分学、微分方程式論、確率論、振動弦の理論その他多くの応用数学の問題を含んでいます。水理学を学んだ者ならば、決して忘れられない名前であるダニエル・ベルヌーイという人物は、18世紀フランスの生んだ大天才であり、数理的理学の創始者と呼ばれています。この人物が又天才オイラーとは親友で、ときには仲のよい競争相手であったことは大変興味深いではありません

か。

次にレオナルド・オイラーですが、この人物の名前を知らない学生はほとんどいないと思われるが、このオイラーも又水理学の中にその名を留める偉人であり、ます。「オイラーは、人が呼吸するように、ワシが空中に身を支えるように、はた目には何の苦労もなく計算をした」とは史上もっとも多産な数学者と呼ばれたレオナルド・オイラーの比類ない数学的力量を語る言葉です。オイラーは作家が親友に手紙を書くのと同じ位やすやすと偉大な研究論文を書いたそうです。

オイラーの数学者としての経歴は、ニュートンが死んだ年をもって始まっています。これは非常に好都合な出発であった。18世紀の大学は、ヨーロッパにおける学問の中心ではなかった。学問の中心は王侯の援助する各種の王立学士院であった。数学はプロシアのフリードリヒ大王とロシアのエカテリーナ女王の寛大さに負う所が大きい。これらの学士院は主要会員に科学的研究を続けさせるために、俸給をばらう研究機関であった。その上俸給や賞与は、一人の男が自分と家族を安楽に暮らさせるには優にあまるほどのものであった。オイラーの家庭には、ときには18人もの家族がいたけれども、彼は充分にこの大家族を支えることが出来たそうです。

オイラーはどちらかといえば、実際のな応用問題よりも、純粋数学の問題の方に興味があり、業績も上げたのですが、決して実際のな問題での業績が無かったわけではない。王立学士院では数学者達に実際面での研究をも望みました。当時実際のな面における数学研究の重要問題は、制海権の問題であった。航海術において、すべての競争国をひきはなす国は必ず海を支配する。航海術とは陸地から数百マイル離れた海上で、正確に位置を決定する事、海戦において相手国の軍艦を超越して有利な態勢をとることに帰着する。この研究にオイラーも一時期没頭しました。しかしオイラーは一度も舟にのったことが無かったそうです。

オイラーはスイスが生んだ偉大な科学者の一人である。彼が数学者になるには親友ベルヌーイの助言が大きく影響した。オイラーはどんな環境でも、どんな場所でも仕事の出来る大数学者であった。オイラーのたえまない着想の流出についての伝説を一つ紹介してこの文を終りにしたいと思います。「彼は二度まで食事と呼ばれる合い間の半時間に一つの数学論文を書き上げてしまったといわれる」

学生に与う

—工学的的人生私見—

図書委員 電気工学科 鴨 沢 勅 郎

諸君たちは、本校に入学して早や数年が経過しようとしている。20才以前の人生の最も感受性の鋭敏な時期に5年間、学友と勉学にスポーツに行動を共にすることは、貴重な体験であり、これを凌駕するものは存在しないと言っても過言であるまい。自己の青春時代を回顧して後悔、自責の念を禁じ得ないのは私だけであろうか。

自然科学は反復実験が可能であるが、人文科学、社会科学における現象は1回性であり、やり直しのきかない人生も、また然りである。この重大なる事実を、ともすれば閑却していないか、大いに猛省する要がある。

我々、人間は万物の靈長などと自惚れているが、自然の一部であり、それ以外の何物でもない。「般若心経」という經典に「色即是空 空即是色」という、かの有名な一句があるのを諸君たちも知っているだろう。全て形あるものは滅し、滅するがゆえに存在している限り、最大限の価値を發揮すべきであるという意味である。我々、人間として例外でなく、いつかは自己の肉体が喪失していくのは必定の理である。しからば、これらの事実を踏まえて自己の人生を、いかように顕現したらよいのであろうか。到底、浅学菲才の身には高次元の命題で不明の域を出ないが、あえて言うならば工学的人生を歩みたいと念願している。

現代社会は高度に発達した科学と産業技術の進展により卓越した「物」が製造され日常生活面の全ゆる点で、我々の想像を越えた計り知れない恩恵を受容している。コンピュータを始めとして生活の至便さに貢献する「物」は機械、電気、化学、土木の各工学分野のみならず他の工学領域においても枚挙に暇がないであろう。工学の目的は、こういった「物」を、「つくる」ことにあり、製品化することが究極の目標である。それゆえに社会は、人間の創造性ならびに創造的想像力を鼓舞し、より良好な製品をつくり出すことを希求している。諸君たちが学校で種々の科目を勉学するのは全て「物」をつくることの基礎的原理を体得するのが狙いである。敗戦後、我々は、経済復興に一路、邁進してきた。その結果、世界でも有数の工業立国に飛躍的に発展し、「経済大国日本」と呼称されるほどまで豊かな社会が現出したのである。飢餓に苦しむアフリカ、戦争に苛むイラン、イラク、難民が増大するカンビブリア49

ボジア等に比較すれば、何と日本は豊かで平和で、まさしく地上の楽園であろうことか。

さりながら現今の社会は、毎日のマスコミで報道されるが如く殺人、強盗、汚職等、残虐な事件が頻発しこのままの状態が、続けば、かつての末法の世が再来しまいかと危惧の念が惹起せざるを得ない。かようなったのは、いかなる因果のゆえであらうか。その一つに、我々は今まで、確かに「物」は、つくってきたが、「心」をつくることに力を傾注したのであろうか、という疑念が脳裡に湧出してくるのを禁じ得ない。ともすれば他人は自分に関係がなく、どうなろうと知ったことでない、自己さえ良ければ、という妄想が時折、浮かんでこないだろうか。物質的に豊かな社会に生存している我々は、豊かさへの奢りに浸漬し精神的に充実しているであらうか。

公害問題、然りであらう。製造過程における廃棄物、汚染物、有害物等を平然と川、海に投棄している企業人の倫理感が、どうにも納得不可能である。資本主義社会では、ある程度、止むを得ないという意見もあるが、「物」をつくることにのみ心を配し、利潤の追求のみ志向して他人に対する配慮が全く欠落したならば社会は崩壊するであらう。いかに「心」をつくるのが肝要であるか、その例証である。

工学の「工」という字を、しばらく眺めてみることにしよう。上の「一」と下の「一」を、真中の「丨」が結んでいる。これは、いかなることを意味しているのであろうか。上の「一」は天を表わし、下の「一」は地を意味し、真中の「丨」は天地を結ぶもの、それは、とりもなおさず自己であると解釈している。自己が天と地を結合する、即ち「宇宙全体」が「我」と一体となる、何と素晴らしいことであらう。

「物をつくること」、「心をつくること」、この両者の、はざまに存在するのが自己であり、その意味では前述の「天」と「地」を結ぶ自己と一脈、相通するものがある。その己れが「物」と「心」を結びつけ、バランスのある発展を計り、互いの跛行をコントロールするならば、この社会は、まさに理想郷の彼岸の実現が期待されるであらう。そして、また、そう生き方こそ、工学的人生と言えるのではないだろうか。逆説的に言えば「物」をつくと同時に「心」もつくる、そういう工学は「人生工学」と名づけても、よいので

はなかるうか。

人間一人では生きられない。自己、一人で生きているのではなく他人との関わりあいの中で生かされているのである。いかなる人間でも仏性があり、その互助性のもとに人生を、歩んでいるのであろう。

「一期一会」という茶道で有名な井伊直弼の言があるが、人生は一瞬一瞬の連続であり、明日があり未来があるという甘い考えが、どれほど自分の人生を無駄にしているか、今しかないという考えに立脚すれば瞬

間に全力投球し、少しでも他人のために奉仕しようという気持ちに転換し光り輝く人間になるであろう。それは、とりもなおさず内村鑑三の言う「後世への最大遺物の顕現であり、道元の言う「人生とは完全燃焼である」と合致するであろう。

「物」をつくるのは畢竟 人間の「心」であり、その意味でも文科系の学問を身につけて広い視野を醸成し、外見にとらわれない個性ある人生を送られんことを祈るや切である。



テレビと読書における影響

学生図書委員 2M 坂 本 秀 樹

最近の学生は、本を読まないと言われていました。テレビばかり見て、読むものといえば漫画や週刊誌で、「読書」をしないと、世間では見えています。しかし、本を読むということは、それほど大切なことなのでしょううか。

私は、漫画やテレビがいけないという考えは少し偏見的に過ぎると思います。このことは、私の経験に当てはめても言えます。今まで学校生活を11年やっていて、記憶に残っているものは、本によるものより、テレビなどの映像を媒体としたもののほうが強かったと思います。

まず、私が小学生のとき読んだ「ああ無情(レ・ミゼラブル)」を例に上げてみます。私は、あの本を小学校の図書館で読みましたが、読んだときは、ただ、主人公のジャン・バルジャンの行動がすばらしいな、と思っただけで、心に深く残るほどの印象はありませんでした。しかし、その後しばらくしてテレビで見たときは、読んだときとは違う、新鮮な印象が心に焼き付きました。このようなことは、大部分の人達にも経験があると思います。

このように、テレビや漫画は、私の成長に多少なりの影響を与えたとし、現在にまで、さまざまな形で影を落していると思います。そして、「読書」より印象が新鮮だと感じます。このことは、年齢による読書力に関係があると思います。人は本を読むとき頭にその本の情景を浮かべながら読みますが、その情景を浮かび出させる能力は、読書を多くすればただけ向上します。しかし、読書力が幼いと自分で情景を作り出せないで必然的に、テレビや漫画による影響を強く受けることになる。そのことが悪循環を呼んで「読書」嫌いの人間が出来上ります。だから、この悪循環を断ち切るには、やはり、「読書」しかないと思います。

読書の最大の効用は、読むことによってさまざまなことを知ることです。その中には、専門知識や一般常識、ある人間の生き方や、それを巡っての抽象的な感覚まで、色々あります。本を読むことで、これらのことを知り、考え、想像し、それらを自分の糧として利用することは重要です。そのために、これからは、読書の回数を増してみませんか。

下級生に遺すことば

「気くばりのすすめ」をすすめる

5M 小松道男

只今全国至る所でベストセラー中、NHKの人気アナウンサー鈴木健二氏の放った名著の呼び声高き一冊を既に読まれた諸君も多いのではないのでしょうか。

就職先からこの本が送られてきて、感想文を書いて提出するという五年生がずいぶんいるようです。社員教育用に採用している会社も多いということがうかがわれます。会社で採用するぐらいであるから、その内容はお固いのではないかと思われる人もいるかもしれませんが、実際はその逆で、何が書いてあるのかといえますと、あたり前の事がたくさん書いてあるのです。

あたり前の事、世の中であたり前の事をあたり前にする事ほど難しいことはありません。自分の胸に手を当ててみれば、誰もそういう経験はあるはずです。世の中が住みにくくなってきたのも、一人一人があたり前の事を出来なくなった、その積み重ねによるとさえ言えると思います。日本人はもともとは、心のマナーという点で大変優れた民族の一つでした。現在の日本人は、忙しさのあまり、祖先から受け継いだその緻密で、決して飾らない小さな心づかいを忘れがちのようです。下級生諸君、一読して忘れかけていた小さな気くばりを再認識してみてください。ちょっとした心使いで、諸君の回りの人間関係が円滑になること受けあいです。

特に強く印象に残った文章を二つほど紹介させていただきます。

「日本女性の理想像として良妻賢母という言葉がよく使われるが、最近の女性をみていると、なるほど賢母ではあるが良妻のほうはどうも、と首をかしげたくなることが多い。「そりゃあ両方でできれば理想でしょうけれど、それはちょっと無理よ」とおっしゃるかもしれない。大切なことは、まず良き妻であることなのである。良妻であることが家庭における女性の役割の第一条件である。賢母はかならずしも良妻ではないが、良妻であれば、必ず賢母になってしまうのである。

両親が良き妻、良き夫であろうとせず、そこを素通

りしてむりやり良き母、良き父であろうとするところに、そして子供に何でも頭から教えこもうとするところにあやまちがあるのだ。」

「男が男としての凛々しさやプライドを失ってしまったことが今日の教育の荒廃につながる。凛々しさとは、いっさいの雑事、雑念を取り払って、清々しい感じで自分の道を一筋に歩いてゆく姿である。凛々しさの源は何であったか。それはやさしさと勇気をかねそなえたもの。やさしい男、勇気のある男はいくらでもいるが、一種の凛々しさをかもし出すような魅力に富んだ男は少ない。」

私は、男として生を受けた以上、外見は凛々しくなくとも、心は凛々しく、誰にも負けないぐらい凛々しく生きてゆこうと、そう思いました。

他人の文章を半分以上引用してしまって、ちっとも自分の意見が反映されていない文章で申しわけなく思っております。これも日頃の読書量の貧困さから来るものです。もっといろいろな本を読まなければ……。

卒業するにあたり、下級生諸君に是非一読をすすめて、五年間御世話になりました図書館へのささやかな恩返しとさせていただきます。

本を読むということ

5E 荻野和久

近頃、よく大人から「今の若者達は、活字ばなれがひどい。」などとよく言われる。確かに、自分自身を含めて、そのような若者が多いのは事実ではないかと思う。

何故、このような事が起こってきたのだろうか、と考えると、理由は簡単、本を読む時間より、ラジオを聴いたり、テレビを見たりする時間の方が圧倒的に増加したからに他ならない。かなりの人達が本を読む時間をテレビなどを見る時間に取られているのではないか。

しかし、僕はこの事自体が悪いことだとは思っていない。なぜなら、テレビなどがまだそれほど一般家庭に普及していなかった頃、世の中の情報などの入手方法として、新聞や本などが用いられていた。現在ではそれらの入手方法がテレビなどに移り変わって来ただけのことではないかと思うからである。

しかし、本や活字を読むということは、ただの情報入手の手段だけではない。本を読むことの主なメリットは、情操教育にあると思う。本を読むことにより、知識が深く広くなるだけでなく、考え方が深遠になり感情が豊かになる。このことが、本を読むことの最大のメリットであると思う。

このように本を読むということには、メリットがあるというのに、僕らは何故、本を読むことに対して、嫌がったり、億劫に思い途中で投げ出したりしてしまうのだろうか。自分の事を考えてみると、本を読むことは、子供の頃からの習慣が、今でもものをいっているとされる。小学校、中学校の頃、先生などに無理やりでも読書させられたり、感想文などを書かされたりすることを、継続することにより、ある程度、習慣づけられた記憶がある。そのうちに、ある本を読み、感動を覚える。そうすると「あ、本を読むのは、こんなにおもしろいものなのか。」と思い、また読みはじめる。このような繰り返しが大切なのではないかと自分なりに思ってみた。僕の場合、おもしろいと思った本が、一般的な文学書でなかったためか、現在読む本も、かなり偏った読書であり、好きな本は、どんどん読むが、そうでない本は、途中で投げ出すことが結構ある。これではいけないと思いつつもなおすことが出来ないでいる嫌な癖みたいなのである。

本というものは、人が書いたものであるから、読む人によっては、感動するし、何も感じないかもしれない。友達や先生におもしろいと言われて読んでみると、そんなにおもしろいと思わなかったりすることがある。これが本を読むとき、本を選ぶときの難しい問題であると思う。もし、初めに、自分にとってまったくおもしろくもない本を読んだりすると、読書が嫌いになってしまう事が起こり得る。このようなことが起こらないようにするには、各自の心構えが大切であろうが、僕ら若い世代には、乱読が一番よいのではないか、僕らは、まだまだ、未完成の人間であると思うから。

私の読書観

5 E 木村義昭

私も、もうすぐ卒業である。この五年間、図書館には大へん御世話になった。そこで、私の読書に対する考えを書きたいと思う。

私も最初、読書というものは、好きでなかった。しかし、クラスの中でも読書好きな人が多く、それに影響され読み始めたんだらうと今思う。最初のころは、短編小説的なものに取りかかった。「野菊の花」なんて、最適なんじゃないかと思う。それから、恋愛物なんか読みやすいのではないか。このような調子で、徐々に本を読むことに対する嫌悪感というものを取り去っていった。そうすると、もう、こっちのものである。新潮文庫の百冊という本の紹介の中から、良いものを選んで、読み漁った。それには、だいたいのあらすじが、本の選択の手助けになった。

今まで、読んで感動した本というのは、数少ないが、そのうちから、紹介したい本を述べよう。まず、三浦綾子の「氷点」である。上下四巻よりなっている。これは、出生時に、取り違えて、親のところへいってしまい、片方は、良い所の御嬢さん、もう一方は、殺人犯の娘として育てられ、それが判明したときのその子供達の心の動揺、親の戸惑いなど、途中、何度も涙が出そうになったのを覚えている。かわいそうだけでは済ませない何かを得る事ができると思う。もう一つは、長塚節の「土」というものである。これは、明治時代の農村の事を描いてある。天候との戦い、本当の土のにおいがする作品である。私の家も農家なので、この本を読んでいると、その苦勞の跡というものもわかり、感動した。

ほんの二冊の紹介だが、別に強制するつもりはない。私自身考えることだが、若い時には、いろんな本に接する機会を持った方が良い。マンガでも、良いではないか。但し、条件をつけること、活字の多いやつに限る。読むという習慣を付けるという点ではいいのではと考えるからだ。

下級生諸君には、学生時代に、良書(自分で感動したと思うもの)に数多く巡り会うことを望む。そうすれば、今後の糧にもなり、考え方も寛容になる。そして、視野も広がると思う。人間、それぞれ違うから、好き嫌いというものには確かにある。でも、本を読んで損することはないと信じている。それは、人間の成長に、本は不可欠じゃないかと考えているから。

今年度研究と学習の精華

I 教官研究 (紀要論文集目次)

57. 12. 25 発行

- ・銅めっき応力測定法による横孔を有する軸の応力集中の緩和について (機械工学科) 佐藤顕二
- ・マイコン制御疲労試験 (機械工学科) 淡路英夫・(小沢一彦)・(宇野 博)
- ・塩化ビニル塗膜の塩素イオン透過率に及ぼす膜厚と温度の影響 (機械工学科) 菅野喜之・(加藤 巧)・(長坂秀雄)
- ・シリコンゲートPチャンネル型MOS-FETの試作(II) — 製造実験室の設計・整備 — (電気工学科) 岩間一郎・奈良和久
- ・3,4'-ビベンジル, 3,4'-スチルベンおよび3,4'-トラン構造を含む芳香族ポリアミドとポリイミドの熱安定性 (工業化学科) 井上和人
- ・散気式曝気槽における自由表面からの酸素移動速度の測定 (工業化学科) 大沢英一
- ・新しい再構成ヘム蛋白の合成とその性質 (物理科) 青柳克弘
- ・A E 観測システムについて (物理科) 根本信行・山ノ内正司
- ・圧電型 A E 変換子の絶対校正 (土木工業科) 山ノ内正司・根本信行
- ・「童馬山房雑歌」瞥見 (国語科) 中村好一
- ・韓国の内廐式民家小考 (社会科) 佐々木史郎
- ・命題 Dynamic Logic (数学科) 森川 治
- ・『余は如何にして基督信徒となりし乎』における内村鑑三のアメリカ批判 (英語科) 渡辺洋太郎

II 卒業研究一覽 (研究発表は 2 月22・23日)

(機械工学科)

題 目	指導教官	学 生	題 目	指導教官	学 生
銅メッキ応力測定法による新しいキーミゼの応力解析	佐藤 (昭)	岩崎隆久・小松道男 永井慎一・細山孝光	熱衝撃試験	淡 路	長谷川 学
太陽熱コレクターの熱的性能	佐藤 (新)	孫崎憲一・鈴木 勲 山内一英	マイコンによる作図プログラムの開発	石 垣	鳴岡章哲・永塚真史
水平円管の自然対流熱伝達	"	通藤幸夫・高橋吉郎	アキュムレータの動特性解析	"	阿部正浩・熊田克己
メタノール混合燃料の始動特性に関する研究	窪 田	阿部尚彦・八島知宜	超音波音の透過損失について	渡 辺	田中 勲・永山義博
メタノール混合燃料の燃焼特性に関する研究	"	遠藤喜弘・金成義順	開口部からの放射音の遮蔽について	"	小泉弘明・佐藤和宏
うずきポンプの特性について	中 山	北原 章・清野雄二	丸鋸の騒音制御	"	関根通行
疲労き裂伝播特性試験	淡 路	二瓶重男・野崎幸夫	塗膜の Ce ⁺ イオン透過	菅 野	加藤信浩
有限要素法について	"	深沢昭浩	塗膜のうへの塗膜の密着力	"	岩田 茂・坂本正明
有限要素法自動データ作成プログラムの開発	"	我妻政博	円孔を有する平板の応力解析	佐藤 (豊)	青木重典・藤田貴久 尾野 栄・森 盛治

(電気工学科)

題 目	指導教官	学 生	題 目	指導教官	学 生
マイコンによるフックシミュリ	大 沢	大橋宏行	エポキシ樹脂の硬化過程の電氣的解明	橋 沢	石井秀樹
ステッピングモーターの制御	"	吉田貞夫	ポリアイオン型太陽エネルギー発電機構	"	野口孝正
レーザープリンターの製作	"	秋田 裕・鈴木孝典	機械的応力下における部分放電	"	木村義昭・斎藤良次
フェイズドアラリアンテナについての考察	山 崎	浦橋和次・松崎秀夫	COMP-Xシミュレータの解析	春 日	伊藤寛志
マイコンによる図形処理についての考察	"	麻生 元・後藤浩行	風力発電システムの設計用プログラムの作成とその実験	"	大石哲嗣・佐藤秀樹
PLIを用いたAM検査回路の設計と製作	"	野口和真	マイクロコンピュータによる電子回路解析	"	椎名 司
PCM	渡 辺	佐川 卓・中山俊彦	MZ1200のモニタプログラムSP1002の解析	"	渡江祐一
いわき地区における等価騒音レベル分布について	"	松崎啓治・和田祐一	MOS I Cの製造プロセス	奈 良	石川剛広・神田和香 菊地 俊・山崎明慶
CVD装置の設計・製作	岩 間	猪持美公・音原英宗	超音波探傷処理システム	村 田	石橋敏重・森野和久 川野浩二・見上豊繁
表面張力によるプラズマアークの性能試験	"	大河原 渡辺政広	非対称パラメトリック発振器の特性	岡 沼	伊藤勇成・勸川隆一
アルミニウム電解コンデンサの信頼性	橋 沢	中野目善			

[工業化学科]

題 目	指導教官	学 生	題 目	指導教官	学 生
レジソルタルの強度 — 骨材の粒径、粒形係数による比較 —	玉 田	小林貞宏・木戸好治	針状酸化亜鉛の光電導性 酸化亜鉛の炭酸ガスとの反応に関する研究	大 隈	坂東良和
河川の水質汚濁と河川底質の特性	伊 藤	石井 勉・香西慎一 山下幸志	酸化亜鉛の表面吸着水の定量	〃	久保木可友
浮遊粉じん中のメーベンツパイレンの分析法	〃	小池千香	酸化亜鉛の表面吸着酸素の定量	〃	尾形亮子
マンガンジュールの湿式製練法	〃	但野春高	気相法による酸化亜鉛合成装置の試作	〃	矢波 信
植物体中の重金属有機化合物の単離	引 地	青木和宏・遠藤佳伸 中野 光	生物学的汚水処理の理論と技術	大 沢	長岡義幸
アルミニウムの熱転写複製について	小 磯	小松山一彦	IC回路による曝気槽内流動現象の測定用機器の製作	〃	橋田芳昭
紫外線照射による改質セルロース繊維の染色性	〃	岡野和久	旋回流式曝気槽における液面の変位を考慮に入れた流速の解析について	〃	佐藤重光・沢田恭男
アゾ染料のポーラログラフィー	〃	平恵久子・伊藤浩	Ni(II)と3-フェニルピリジンとの錯形成反応	高 橋	楠 俊治
高分子の光異性化反応	井 上	佐藤浩幸	Ni(II)と4-フェニルピリジンとの錯形成反応	〃	鈴木康浩
Knoevenagel 反応	〃	花園 貴	0,0'-ジヒドロキシアゾ色素と種々の金属イオンとの錯形成反応	〃	鈴木哲史
ジプロケトンの合成と反応	〃	岡田晃徳	天然フラボンに食品添加剤を加えたものの油脂に対する抗酸化性	金 田	菅野富夫・大利英昭
ガラスキャピラリーカラムの研究	小 林	鈴木浩子・山形昌伸	藻類植物中の抗ガン性物質の抽出分離	〃	岩崎 毅

[土木工学科]

題 目	指導教官	学 生	題 目	指導教官	学 生
半重力ダムの可能性について基本的研究	高橋(省)	赤津勝則	新川の総合解析と将来計画	橋 本	菅波 亨
新川の現状と未来	橋 本	阿部光大	スノーシェドにおけるPC鋼材の付着特性について	志 賀	鈴木康成
軟岩ずり(第3紀層花岩)のストンキングと圧密メカニズムについて	佐 藤	五十嵐 洋	主桁高と断面変位数が剛重におよぼす影響について	土 居	高橋正人
平地区における水道管の耐震性について	佐 藤	五十嵐善幸	一連の応力仮定型平板理論の直交異方性平板の解析における精度特性	根 岸	高橋幸也
スノーシェドにおけるPC鋼材の付着特性について	志 賀	石川久光	常磐新幹線ルート選定	高橋(省)	高萩 芳
トラス橋の経済術高について	土 居	磯上 洋	三角測量と三辺測量の比較	高 波	中野 孝
土木計画における評価に関する研究	高橋(邦)	梅田和人	新川の現状と将来像	橋 本	青木目慎司
いわき市内のコンクリート骨材を使用した高強度コンクリートの作成とそれに関する考察	志 賀	小野要一	鋼橋の推定換算重量式の検討	土 居	新田 勝
比例ゼキにおける水理学的特性について	宮 野	加山幸弘	比例ゼキの研究	宮 野	波立照明
板についての理論	根 岸	神尾正充	常磐新幹線のルート選定	高橋(省)	箱崎宏三
境界要素法によるき裂解析	山ノ内	川島 優	有機性底泥の掃流に関する基礎的実験	橋 本	箱崎高志
三角測量と三辺測量の比較	高 波	空閑秀雄	地震時における埋設管の継手部分の変位について	佐 藤	橋本岩夫
高強度コンクリートの作成及び、いわき市の骨材調査	志 賀	草野昌夫	三角測量と三辺測量の相異について	高 波	藤木陽一郎
地盤の側方流動現象の有限要素法による解析	佐 藤	小室和夫	A E信号の分類化について	山ノ内	本名伸吉
いわき地区の骨材調査及びそれを用いた高強度コンクリートの作成	志 賀	小林 匡	土のうの研究	高橋(省)	宗俊寿文
いわき地区における骨材及びそれを用いたコンクリートの二、三の考察	〃	佐々木一樹	第3紀層花岩の盛土材料の圧縮機構について	佐 藤	山下英男
土木計画における評価に関する研究	高橋(邦)	佐藤浩明	土木計画における評価に関する研究	高橋(邦)	山口和英
き裂発生時のA E増波数スペクトル特性	山ノ内	斎藤栄治	A E信号の分類化による破壊機構の考察について	山ノ内	山田杏治
単純合流橋の最適形成について	土 居	坂本欽司	三角測量と光波測距儀による三辺測量との比較	高 波	横田貴浩
直交異方性層状板の解析理論に関する研究	根 岸	志賀雅人	常磐新幹線のルート選定	高橋(省)	波立照行
有機質底泥の掃泥作用に関する基礎的研究	橋 本	鶴原一夫			

卒業する人が後輩に勧める本

*は専門科目のもの。再は再出のもの。註の数字は定価(円)。

〔機械工学科〕

氏名	書名	著者	発行所等	註	氏名	書名	著者	発行所等	註	
吾妻 重典	織田信長	山岡 荘八	講談社	とにかくおもしろい	永塚 真史	日本の国防力	再	講談社	自衛隊は世界一	
	豊臣秀吉			持っているだけでも		氣くばりのすすめ	再			豊かな人間関係を
	徳川家康			取つぷしに敵通		統計でワソをつく法				賢くなる
我妻 政博	ファラストラウかく語りき	ニーチェ		持っているだけでも	読む技術・書く技術(続)					
	アンナ・カレーニナ	トルストイ		取つぷしに敵通	蜜ばちと花どけい	内田 亨	旺文社		虫の話がおもしろい	
阿部 尚彦	徳川家康 26巻	再		日本人の心	地球のなぞをさぐる				おもしろい	
	竜馬がゆく 8巻	司馬遼太郎	文春文庫	20代何をすべきか	パレンツ南海戦	ダドリー・ホープ	ハヤカワ文庫		ワクワク	
岩田 茂	榎家の人々	北 杜夫	新潮文庫	すばらしい	*関連いだらけの自動車えらび	徳太寺有似			将来役立つ	
	気ままに書いた松日記	吉田 拓郎		偉人の人生観	アラブとイスラエル	ナルトル	サイマル		影の支配民族 ユダヤ	
岩崎 徳久	*金属物理学			簡潔明解	弁償法とはどういふものか	松村一人	岩波新書		読本と日見について	
	金閣寺	三島由紀夫	新潮文庫	就職後役立つ	ソビエト ライフ	高橋正一(初版)			タチマエ社会のホンネ	
遠藤 喜弘	ビュクト・ヘモロウ		青春出版社		宮本武蔵	吉川英治	講談社		長いが楽しい	
	華岡古州の妻	有吉佐和子	新潮文庫		*初等量子力学	再				
加藤 信浩	金閣寺	三島由紀夫			*Newton	再			読みやすい	
	ひめじりの塔をめぐる人々の手記?		角川書店							

〔電気工学科〕

氏名	書名	著者	発行所等	註	氏名	書名	著者	発行所等	註
小松 道明	燃えよ剣 上・中	司馬遼太郎	新潮文庫	有名	秋田 裕次	寝なんかこわくない	庄司 薫	中央公論	
	燃えよ剣 下	三浦 綾子		短編	石川 剛宏	竜馬がゆく	再		一度は読め
佐藤 和宏	気くばりのすすめ	鈴木 健二	講談社	男はこうありたい		カラマーズフの兄弟	トフトエフスキー		
	NHKラジオ松見道英話	(毎月刊)	NHK出版	本当の愛とは	猪狩 英公	*初等量子力学	短風館	培風館	理解しやすい
坂本 正明	長江・歩 紀行	さだまさし	集英社	世の中の風情油		*大学演習 微積分学	堂書房		復習に
	総合比較・日本の国防力	長谷川豊太郎	祥伝社	山と口から		* " " 一般物理学			
鳴原 重行	*理科系の作文技術	木下 基雄	中公新書	長江の雄大・人々の生き方	決定版	*レーザー読本	オーム社		初めての人に
	*The man made world 技術評価の工学入門	平松香三郎	オーム社	GNP 10%で十分	シスターエンジニアリング 豊かか例	萩野 和久	平井和正	角川文庫	現代の懸念録?
藤崎 孝一	悪の論理	倉前 義通	角川文庫	日本の防衛について	厄 彦	伊藤 豊	新潮文庫		すぐれた文庫挿写
	黄色いロボット	眞井 健	読光新聞社	超優良企業の秘密	球 映	早乙女 貞	読光新聞社		黒木武士の半生
高橋 吉郎	*月刊 自動化技術	工業調査会		OA-F Aの知識	青い妻	コレット	新潮文庫		青春の高橋
	*飛行機はなぜ飛ぶか	近藤 次郎	ブルーバックス	流体力学の入門書	*電子回路演習		オーム社		分りやすい
永井 慎一	*自動車の科学	樋口 健治		自動車工業	神田 和義	次郎物語 5巻	新潮文庫		学生時代にぜひ
	月刊 就職ジャーナル	日本リクルートセンター		面接・作文対策		竜馬がゆく	再		
鳴原 重行	人生論	トルストイ		人生とは何か		*初等量子力学	再		2000 奈良研向き
	友情	武者小路		友情の大切さ		*わかる半導体セミナー	伝田精一	CQ出版	分りやすい
藤崎 孝一	汚れた英雄	大やぶ春彦		おもしろい		*入門 I C セミナー			
	豊臣秀吉	再		たのしい		*Newton			
高橋 吉郎	夜と霧の間で	北 杜夫	新潮文庫	読めば分かる	木村 承昭	観巻れするとき読む本	神津カンナ		おもしろい
	ポケットサイエンス	ベレリマン	教養文庫	授業による授業のため		水 点	再		
永井 慎一	水点(正・続)	三浦 綾子	朝日新聞社	とにかく読め	斉藤 良次	春と風	スタンダード	新潮文庫	男女の二面
	嵐崎の人	新田 次郎	新潮文庫	山に行きたくなる		関ヶ原	司馬		男の生きざま
鳴原 重行	愛と死	武者小路		実に美しい		もみの木は残った	山本周五郎		武士魂
	F・ポルシェ	フランケンベルグ	二玄社	乗りたくなる		*廣習物理学	若菜光雄	培風館	色々役立つ
加藤 信浩	車検で5万円出得する法	鳩田 三男	ワニブックス	オレも得した		*電磁気学	卯本重郎	昭晃堂	教科書よりずっとよい

氏名	書名	著者	発行所等	註
司馬 遼太郎	物理の散歩道	ロゲルキスト		おもしろい
司馬 遼太郎	電馬がゆく	再		神田君が読んだ
司馬 遼太郎	*初等量子力学	再		"
司馬 遼太郎	*Newton	再		読みやすい
丹野 浩二	*特解演習・電気磁気学	宇田川 健久	川書店	初歩と電流に
中野 実	気がばりのすすめ	再		すすめられて
中野 実	男は20代に何をすべきか	鈴木 健二		
中野 実	猫狩時	再		
中野 実	冬の旅	立原 正秋	新潮文庫	
中山 俊彦	電馬がゆく	再		
中山 俊彦	*オペアンプの基本と応用	角田 秀夫	電機大	
中山 俊彦	*デジタル集積回路	再		
渡江 祐二	電馬がゆく	再		
渡江 祐二	次郎物語	再		
野口 和真	アメリカ最後の計算	寿合 信彦	ごま書房	
野口 和真	氷点	再		
野口 和真	やさしい情報整理学	かいきよみち	社会思想社	
野口 孝正	電馬がゆく	再		
野口 孝正	ビルマの聖琴	再		
野口 孝正	アクロイド脱し	アガナクリスタ	ナカク文庫	だまされぬように
松崎 啓治	自我の構図	三浦 綾子	講談社	
松崎 啓治	*電子回路	丹野 頌元	森北書房	授業とビタリ
山崎 明彦	気がばりのすすめ	再		
渡辺 政広	はてなんだらうの物理学			見なれた現象に
渡辺 政広	初級クラスのドイツ語		部文堂	少しはわかるように
渡辺 政広	*電磁気学	再		必読参考書
渡辺 政広	*演習電磁気学	再		実力養成に
渡辺 政広	*大学演習解新学概論		書書房	力がつく
渡辺 政広	*演習微分方程式		サイエンス社	力が絶対つく

(土木工学科)

氏名	書名	著者	発行所等	註
赤津 晴則	雷 国	川端 康成		
赤津 晴則	プロ野球を10倍楽しく見る法	江本 孟紀		
赤津 晴則	土木工学ハンドブック	土木工学会		
阿部 光夫	構造力学演習			
五十嵐 洋	土木学会誌	再		
五十嵐 洋	徳川家康	再		
五十嵐 洋	逆転の発想	永川 英夫		
五十嵐 洋	*土のはなし Ⅰ、Ⅱ			なかなかおもしろい
石川 久光	汚れた英雄	再		映画より原作
石川 久光	男は二十代で何をすべきか	鈴木 健二	大和出版	男の生きざま
石川 久光	*土木学会誌	再		必読
磯上 洋	高熱隧道	吉村 昭	新潮文庫	
磯上 洋	汽車探12ヵ月	宮脇 俊三		おもしろい
磯上 洋	ホットドッグプレス			
磯上 洋	*理科系の作文技術	再		役立つ
梅田 利人	男は二十代で	再		
梅田 利人	*土木工学ハンドブック	再		
梅田 利人	*基本 BASIC		技報堂	
小野 要	罪と罰	ドストエフスキ	集英社	心理の深味
小野 要	Yの悲劇	クーン	新潮文庫	世界的秀作
小野 要	息の論理	再		国際情勢へ関心
小野 要	*土木工学ハンドブック	再		
小野 要	*土質工学演習		森北出版	わかりやすい
加山 幸弘	電馬がゆく	再		
加山 幸弘	三國志	柴田 義三郎	講談社文庫	
加山 幸弘	六とう三略			
加山 幸弘	プロ野球を10倍楽しく	再		
加山 幸弘	*土木工学ハンドブック			
神尾 正光	高熱隧道	再		技術者の気持ち
神尾 正光	比 照	運輪 周作		著者のまじめ(25)
神尾 正光	自分をどう愛するか			ちがひわかる
神尾 正光	ICセドンファン	吉行 輝之介	角川文庫	社会勉強
川島 康	峠の記憶	渡辺 淳一		特に土木科生へ
川島 康	宮本武蔵	吉川 英治	講談社	とにかく一読せよ
川島 康	NHKラジオ講義	東條 晴明	出版協会	月刊 英語くらゐ
川島 康	口語民法		自由国民社	わかりやすい
川島 康	*構造力学演習	成岡 昌夫	国民科学社	中級問題多い
川島 康	*測量士補受験100問	中川・土橋	山海堂	受験者へ
空閑 秀雄	エデンの東	スタインベック		ディーン主演の映画化
空閑 秀雄	優 越 (月刊)		日本中央競馬会	サラブレッドが好き
原野 昌夫	上	長塚 節	新潮文庫	
小室 和夫	プロ野球を10倍	再		
小室 和夫	- 20倍	江本		おもしろい
小室 和夫	*有限要素法	三好 俊郎	実教出版	ためになる
小林 匡	新ボディビル入門			土木は体力だ
小林 匡	ザ・シェイプアップ			心も体もたくましく
佐々木一則	高熱隧道	再		大自然と戦う男ロマン
佐々木一則	男は20代に	再		
佐々木一則	知的マナー入門	山根 幸弘	青春出版社	社会へ出る前に
佐藤 浩明	汚れた英雄	再		

(工業化学科)

氏名	書名	著者	発行所等	註
吉崎 毅	月長石	ウエスキコソバ	創元社	長編推理の最高峰
吉崎 毅	世界短編傑作集1~5	エラリクイン他		短編推理の絶頂
吉崎 毅	もう一つ別の広場	野沢・白石	ブロンズ社	15年前の若老若の考え方
岡野 和久	化学実験の事故と安全	日本化学会 訳編	丸 青	3,200
権田 芳昭	新しい地球観	上田 敏也	岩波新書	地球を見直せ
権田 芳昭	栄光の岩壁	新田 次郎	新潮社	なぜ山へ登るかの書
佐藤 浩幸	ムーア物理化学		東京化学同人	
佐藤 浩幸	アニリン	シュンツンガー	法政出版局	
鈴木 哲史	ひつじが丘	三浦 綾子	旺文社文庫	愛とは何か
鈴木 哲史	自殺のすすめ	渡辺 淳一	中公文庫	おもしろい自説論
鈴木 哲史	愛が好きです	中島みゆき	新潮文庫	歌詩を収める
鈴木 哲史	Elements of physical chemistry	Glasston Lewis	丸 青	初歩物理化学
鈴木 哲史	基礎無機化学	ウエスキ・コソバ	東京化学同人	基礎はこの一冊で
但野 春高	史記列伝	司馬遷		
但野 春高	三國志漢書	羅貫中		時代に生きた人々から学ぶ事多い
但野 春高	プロレスを10倍楽しく見る方法	アブドラ	ワニブックス	とにかくおもしろい
長岡 良幸	東大一年級	伊藤 信編著	三一書房	学生生活
長岡 良幸	開成東大十四年	伊藤 信	一光社	学生生活
長岡 良幸	聖老人	山尾 省三	ブラザード書店	真生活体験
長岡 良幸	地球ロマン第3巻 我家へ天竺也	伊藤・武田編	旺文社	痛快先達

氏名	書名	著者	発行所等	註	氏名	書名	著者	発行所等	註
齊藤 栄治	かくされた十字架	梅原 猛		なんとなく		フォーカス		ニュース誌	
	宮本武蔵	再		おもしろい	中野 孝	*土木工学ハンドブック	再		とにかくおもしろい
	三因志	再		歴史がおもしろくなる		黄金の犬	西村 寿行		
	人間失格	太宰 治		考えさせられる		*理科系の作文技術	再		
	*理科系の作文技術	再				*土木工学ハンドブック	再		
	*道路標示方書・同解説	日本道路協会		必読	青木日俱示	エルフ・イド	千乃 裕子	放送と愛出版社	人生とは
坂本 敬司	竜馬がゆく	再		果てしない夢		エルバーラム	-	-	-
	人間の条件	五味川純平	文春文庫	人間とは?	新田 勝	プロレスを10倍楽しく見る方法	ブッチャー		おもしろい
	道は開ける	D.カーネギー			飯立 照明	プロ野球を10倍	再		ほんとにたのしい
	人を動かす	-				プロ野球を20倍	再		
	*高等数学教程	スミルノフ		こんせつていばい	岡崎 宏三	塩狩峠	再		感動
	*数学序説	培風館				まちがいだらけのドライブテック			モータースポーツ入門
志賀 雅人	氷点・氷水点	再			箱崎 高志	アラスカ物語	新田 次郎		感動と涙
	*理科系の作文技術	再				竜馬がゆく	再		
橋原 一矢	車輪の下	ヘッセ	新潮文庫	感動した		風と共に去りぬ	ミッチェル		愛と苦悩の人生
	あすなろ物語	井上 靖	新潮文庫	感動した		三太郎の日記	阿部 次郎		人生観が変わる
菅波 亨	青春の門	五木 寛之	講談社	ためになる		*土木工学ハンドブック			土木科必読書
	Einjuhny in die deutsche grammatik		同文社	ドイツ語がわかる	橋本 岩夫	土のはなし 1・II	再		一読せよ
	小説吉田学校	戸川猪佐武	角川文庫	政治家をいうもの		そんじゅ何かい人生論		講談社文庫	人間が豊かになる
	*土木用語解説		土木学会	ためになる		*基本構造力学			就職試験のため
鈴木 康成	犬 笛			ロマンスセンス		*土木用語集	再		
	我が故に復讐せり上下	西村 寿行	読み比べて	ロマンード	藤水陽一郎	人を動かす	再		
	野獣の咆哮	大やぶ春彦	ください。	ハードワズセンス		愛と死と叛逆と			J・デーの生涯
	三四郎	鹿 石		三部作	本名 伸吉	狼なんかこわくない	庄司 重	中央公論	
	それから	"		読む価値あり		不思議の国のアリス	キャロル	角川文庫	
	門	"				青色のタペストリー	松田 聖子		よい
高橋 正人	塩狩峠	再		実に感動的	宗像 寿文	池川家康	再		おもしろい
	氷 点	再		読む価値あり		ペリーロードンシリーズ	ファルツ他	早川書房	87巻既刊
	天声人語	深代 徳郎	朝日新聞社	文章が生きてる	山下 英男	車輪の下	再		感動的
	*道路標示方書	再		将来のためになる	山口 和英	高専学生における就職情報		日本リクルーターセンター	
	構造力学演習・不静定編	吉田 博	倉北出版	わかりやすい		～ 産業研究			
高橋 幸也	女生徒(短編集)	太宰 治	角川文庫	太宰入門		*土木工学における数値解析	土木学会	サイエンス社	
	人間失格	"		最後の太宰		*格子げたの理論と計算	渡辺 昇	技報堂	
	野 火	大岡 昇平			山田 吉治	続々逆転の兇犯	糸川 英夫	角川文庫	21世紀エンジニアに
	白 糸	ドフトエフスキ	岩波文庫	奥の深い文学		泥濘地帯	三浦 隆子	新潮社	感動
高萩 芳	朝庭のまつり	泡坂 妻夫		学科長が懲めた	横田 貴浩	風と共に去りぬ	再		
	青春の門	五木 寛之	講談社	自分にできなべと		建設マンへのアドバイス		清文社	業界の現状わかる
	スコラ	(雑誌)		あきない	渡辺 照行	乱れたベッド	サガン		
	流行通信			写真が多い		現代の帝王学			

新成人に勧める近刊書(紹介)

読書推進運動協議会(都新宿区袋町六)では、「成人の日読書のすすめ」というリーフレットを作って、新しく成人の日を迎えた人に配布している。次のような本を収めている。

○藤原新也・インド行脚・旺文社 ○外山滋比古・美しい日本語・小学館 ○JHコーナー・石井訳・思い出の昭南博物館・中央公論社 ○神津カンナ・親離れするとき読む本・青春出版社 ○田辺聖子・風をください・集英社 ○菅孝行・感性からの自由を求めて・毎日新聞社 ○竹田津美・キタキツネ飼育日記・平凡社 ○辻邦生・樹の声海の声・上・中・下・朝日新聞社 ○境一郎・魚が減びる・農山漁村文化協会 ○アンワル・エル・サダト著・読売新聞外報部訳・サダト・最ピブリア49

後の回想録・読売新聞社 ○千葉康則・自己暗示術・光文社 ○南条純子・再見北京・主婦の友社 ○色川大吉・同時代への挑戦・筑摩書房 ○日経サイエンス編・日曜日のサイエンス読本・日本経済新聞社 ○山折哲雄・日本人の心情・その根底を探る・日本放送出版協会 ○清水正徳・働くことの意味・岩波書店 ○江夏美好・針千本・私のがん闘病記・河出書房新社 ○会田雄次・必然と偶然と・雷鳥社 ○足立倫行・人旅に暮らす・日本交通公社 ○F・ホイル著・竹内均訳・氷河時代がやってくる・ダイヤモンド社 ○小塩節・ブレンナー峠を越えて・音楽之友社 ○中村真一郎・本を読む・新潮社 ○松下竜一・ルイズ・父に貰いし名は・講談社 ○沢木耕太郎・路上の視野・文芸春秋

冬休み利用統計

I. 帯出人員と冊数 = 学年・学科別

学 年	1		2		3		4		5		計	
	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊
機 械	10	18	4	6	2	2	9	14	18	35	43	75
電 気	6	13	3	4	6	14	7	14	21	54	43	99
化 学	2	4	2	4	7	9	9	17	4	10	24	44
土 木	3	1	1		3	7	7	12	6	7	20	27
計	21	36	10	14	18	32	32	57	49	106	130	245

II. 学年・分類別冊数

分類	学年						計
	1	2	3	4	5	計	
総 記	1		1	2	6	10	
哲 学	9		1	5	1	16	
歴史・地理	4	3	1	1		9	
社 会					1	1	
自 然	5	5	9	25	18	62	
工・技	10	4	17	23	75	129	
産 業							
芸 体							
語 学	2					2	
文 学	5	2	3	1	5	16	
計	36	14	32	57	106	245	

III. 学科・学年分類別冊数

学年	科 類	在籍人 分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
			総記	哲学	歴史	社会	自然	工・技	産業	芸術	語学	文学	
1	M	42		2	2		3	9				2	18
	E	40		5	2		2	1			2	1	13
	C	42	1	1								2	4
	土	41		1									1
	計	165	1	9	4		5	10			2	5	36
2	M	40			2		1	2				1	6
	E	42					1	2				1	4
	C	41			1		3						4
	土	40											
	計	163			3		5	4				2	14
3	M	40						2					2
	E	39			1		3	8				2	14
	C	37	1	1			4	3					9
	土	39					2	4				1	7
	計	155	1	1	1		9	17				3	32
4	M	43	1				3	9				1	14
	E	41					5	9					14
	C	36	1	2			14						17
	土	37		3	1		3	5					12
	計	157	2	5	1		25	23				1	57
5	M	36	5					29				1	35
	E	37	1	1		1	10	37				4	54
	C	33					6	4					10
	土	41					2	5					7
	計	147	6	1		1	18	75				5	106
総 計	787	10	16	9	1	62	129				2	16	245

希望図書備付け

図書館受付台においてある希望図書投書箱に投入されてあったもののうち、図書委員会では下記を選定し、備付けることにしました。

・安部公房全作品・15巻・新潮社
 ・森茉莉・ロマンとエッセー・6巻・新潮社
 今後も遠慮なく読みたい本をお知らせください。

新着図書目録

☆印は図書館、他は各教官の研究室に所在するものを分別受人頼に記載

総記

朝日新聞縮刷版 昭和57年7月～9月号 朝日新聞社☆
 福島民報縮刷版 昭和57年6月～9月号 福島民報社☆
 民権年鑑 昭和57年版 同 ☆
 同 昭和58年版 付名座編 同 ☆
 福島年鑑 昭和58年版 福島民友新聞社☆
 学術雑誌総合目録英文編 1982年補遺版 文部省学術国際局☆

梅原猛著作集

6 仏教の思想 集英社☆
 13 万葉を考ふる 同 ☆

人類の知的遺産

1 古代イスラエルの思想家 講談社☆
 37 ニュートン 同 ☆
 50 マルクス 同 ☆

東洋文庫

412 回春発陽論 平凡社☆
 413 甲子夜話三篇 I 同 ☆
 414 都風俗化転変 同 ☆

The Random House Encyclopedia
 Random House

哲学

堀一郎著作集 8 未来社☆
 内村鑑三全集 25, 26, 30 岩波書店☆
 大学教育とカウンセリング 芸林書房
 ルソー全集 7 白水社☆
 マルティン・ハイデッガー 心理主義の判断論 理想社☆
 R. A. ニコルソン イスラーム神秘主義におけるペルソナの理念 人文書院
 マンリー・P. ホール 秘密の博物誌・象徴哲学大系 II 同
 中村元他 渾身の仏教 朝日出版社
 フォルク・ストレム

古代北欧の宗教と神話

人文書院☆

佐藤泰夫

歴史
 ハワード・ジン 民衆のアメリカ史・上・中・下 TBSブリタニカ
 クルト・トウホルスキー ドイツ世界に甞たるドイツ ありな書房
 エレ・ス・カレル・ルニダンコース 崩壊した帝国 新評論
 越智香明 魏晉南朝の貴族制 研文出版
 堺口隆康 古代中国を発掘する 新潮社☆
 日本歴史地名大系 平凡社☆
 8 茨城県地名 平凡社☆
 角川日本地名大辞典 角川書店☆
 22 静岡県 角川書店☆
 日本の山河
 44 天と地の跡 宮波 国書刊行会☆
 45 岡 岩手 同 ☆
 46 岡 青森 同 ☆

彈性波動論 岩波書店
 上田尚一 データ解析の方法 朝倉書店
 富田謙吉 生体防御のしくみ 化学同人☆
 大津隆行 高分子合成の実験法 同 ☆
 佐々木和夫 電極反応入門 同 ☆
 Y・Marcus マーカス液体化学同人 同 ☆
 武内次夫 高分子の熱分解ガスマトラフィー 同 ☆
 未利用資源と合成化学・化学増刊63 同 ☆
 ナイトロジェン・ファインケミカルズ79 同 ☆
 湯川泰秀編 理論有機化学 反応編 同 ☆
 中川正澄編 理論有機化学 構造編 同 ☆
 丸山和博 有機化学序説 同 ☆
 H・Freiser イオン平衡 同 ☆
 花井哲也 膜とイオン 同 ☆
 半谷高久 地球・水・思う 同 ☆
 コットン・ウィルキンソン 無機化学・下 培風館☆
 Ronald Breslow 有機化学反応機構 興川書店☆
 沼谷三郎 測定値計算法 森北出版☆
 大石二郎 工学基礎物理実験 東京大学出版会☆
 Berkeley パークレー物理学コース付実験物理 丸善☆
 上・下 丸善☆
 佐賀亦男 引力とたたかい とぶ 法政大学出版局☆
 戸田盛和 おもちゃセミナー 叙情性と科学性への 日本評論社☆
 招待 同 同 同 ☆
 原島鮮 物理教育覚え書き 芸林書房☆
 柳瀬睦男 物理学の思想と方法 三省堂☆
 富塚清 生活の中の科学技術 山海堂
 小暮福三

社会科学

坂井洲二 ドイツ民俗紀行 法政大学出版局☆
 町田隆哉 英語授業のプログラミング 大修館書店
 羽鳥博愛 学習者中心の英語教育 同
 松畑純一 生徒と共に歩む英語教育 同
 羽鳥博愛 心理言語学と英語教育 同
 A・W・ハイルマン フォニックス指導の実際 玉川大学出版部
 外山三郎 西欧海戦史 原書房
 林 勲 PC-8001による最新ビジネスゲーム入門 日本能率協会
 日本の祭り
 8 九州 沖縄 講談社☆

社会科学
 丸山和博 有機化学序説 同 ☆
 H・Freiser イオン平衡 同 ☆
 花井哲也 膜とイオン 同 ☆
 半谷高久 地球・水・思う 同 ☆
 コットン・ウィルキンソン 無機化学・下 培風館☆
 Ronald Breslow 有機化学反応機構 興川書店☆
 沼谷三郎 測定値計算法 森北出版☆
 大石二郎 工学基礎物理実験 東京大学出版会☆
 Berkeley パークレー物理学コース付実験物理 丸善☆
 上・下 丸善☆
 佐賀亦男 引力とたたかい とぶ 法政大学出版局☆
 戸田盛和 おもちゃセミナー 叙情性と科学性への 日本評論社☆
 招待 同 同 同 ☆
 原島鮮 物理教育覚え書き 芸林書房☆
 柳瀬睦男 物理学の思想と方法 三省堂☆
 富塚清 生活の中の科学技術 山海堂
 小暮福三

自然科学

先生と生徒のための物理実験 共立出版☆
 理科年表 昭和57年 丸善☆
 家庭の健康百科 クリニック 学習研究社
 岡 ヘルシーライフ 同

図解統計熱力学の学び方 オーム社
 杉山隆二 地震 東南大学出版会
 F. A. Cotton 有機化学・上 培風館※
 Peter J. Sykes 有機反応機構・上 東京化学同人※
 岡田功敏 植物化学命名法 オーム社※
 橋谷正一 図解有機化学反応の見方・考え方 同 ※
 A. P. Ryies ライフサイエンス有機化学 化学同人※
 渡多野博行 実験高速液体クロマトグラフィー 同 ※
 岡部浩三 触媒のはたらき 同 ※
 渡谷勲 化学反応のメディア 同 ※
 Allen J 溶液内イオン平衡 同 ※
 山辺時雄 ノーベル賞科学者 福井謙一 化学と私 同 ※
 池植啓一郎 微量化学の手法 同 ※
 井本隆 理論有機化学解説 東京化学同人※
 宮原将平 物理学者の眼 北大図書刊行会※
 有本信雄 球状星団 地人書館※
 磯部靖三 灼熱の星間空間 誠文堂新光社※
 中野圭一 マイコンが解く天体の謎 同 ※
 広瀬秀雄 天文学史の試み 同 ※
 ウィリアム・ハーシェル 近代天文学の夜明け 同 ※
 山田卓 夏の星座博物誌 地人書館※
 秋の星座博物誌 同 ※
 春の星座博物誌 同 ※
 G. T. バース 現代の宇宙像 同 ※
 磯部靖三 散光星雲 同 ※
 B. ボークン 望ちたサル 思索社
 小林龍一 相関回帰分析入門 日科技連
 数量化理論入門 同
 芳賀敏郎 回帰分析と主成分分析 同
 川村仁祝 現代人の健康と運動 杏林書院
 三浦基弘 物理の学校 東京図書
 村上隆一郎 運動力学と数学との出会い 知の革命? 朝倉書店※
 野崎一 高選択的反応 化学増刊91 化学同人※
 カンパニエーツ理産物理学講義
 1 力学 東京図書※
 2 相対論と電磁力学 同 ※
 3 量子力学I 同 ※
 4 同 2 同 ※
 5 統計物理学 同 ※
 6 流体力学 同 ※

7 電磁気学 同 ※
 8 物理的運動論 同 ※
 化学モノグラフ
 20 有機光化学 化学同人※
 22 芳香族性 同 ※
 24 遷移和 同 ※
 ブルーバックス
 508 反物質の世界 講談社※
 509 太陽系の45億年の旅 同 ※
 511 超自然にいとむ 同 ※
 515 科学博物館からの発想 同 ※
 516 宇宙の運命 同 ※
 朝永振一郎著作集
 1 鳥獣戯画 みすず書房※
 2 物理学と私 同 ※
 4 科学と人間 同 ※
 5 科学者の社会的責任 同 ※
 7 物理学とは何だろうか 同 ※
 8 量子力学の世界象 同 ※
 松澤武雄 地震の理論とその応用 東京大学出版会
 長野郎編 Electroorganic Chemistry 化学増刊86 化学同人※
 Masao. Koizumi Photosensitized Reactions 同 ※
 John. D. Roberts Basic Principles of Organic Chemistry W. A. Benjamin
 E. Dieulesaint Elastic Waves in Solids Wiley
 Ari Ben - Menahem Seismic Waves and Sources Spring-Verlag
 Physical Acoustics Principles and Methods vol I - Part A 同 ※
 vol I - Part B 同 ※
 vol II - Part A 同 ※
 vol II - Part B 同 ※
 vol III 同 ※
 vol IV 同 ※
 vol V 同 ※
 vol X 同 ※
 vol XI Academic Press
 Elements of Organic Chemistry McGraw-Hill
 W. Bertsch Recent Advances in Capillary 2.3 Hüthig
 Warren. P. Mason Physical Acoustics vol III Academic Press
 Keiiti. Aki Quantitative Seismology Freeman

工学技術

工業化学化学工学データブック オーム社※
 技術評論の工学入門 同 ※
 実用電子回路ハンドブック4.5 CQ出版社
 実務家のための最新下水道ハンドブック 建設産業調査会
 土木建築技術者のための最新軟弱地盤ハンドブック 同
 解説河川管理施設等構造令 山海堂
 産業用ロボットの応用 日刊工業新聞社
 同 技術 同

第15回電気絶縁材料シンポジウム予稿集 電気学会
 昭和57年度電気四学会九州支部連合大会講演論文集 電気四学会九州支部
 昭和57年度電気四学会北海道支部連合大会講演論文集 電気四学会北海道支部
 昭和57年度電気四学会北陸支部連合大会講演論文集 電気四学会北陸支部
 昭和57年度電気四学会連合大会講演論文集 電気学会
 1/6 別冊グラフィックプリンタの使い方 工学社
 1/6 別冊システムプログラム 同
 PC-8001マシン語活用ハンドブック 秀和システムトレーディング
 月刊マイコン別冊PC-8001・8001マシン語入門 電友新聞社
 マイコンコンピュータハンドブック 朝倉書店
 日本音響学会昭和57年度秋学研究発表会講演論文集1,2 日本音響学会
 昭和57年度電気関係学会関西支部連合大会講演論文集 電気関係学会関西支部
 昭和57年度電気関係学会四国支部連合大会講演論文集 電気関係学会四国支部
 新しい材料の事典 共立出版
 美しい機種のデザインマニュアル 土木学会
 小寺沢良一 フラクトグラフィとその応用 日刊工業新聞社
 北川英夫 フラクトグラフィ 培風館※
 大塚茂之 図解パソコンの使い方 オーム社※
 城塚正 化学技術者のための移動速度論 同 ※
 岡田功 化学工学入門 同 ※
 荻野典夫 大学課程化学工学通論 同 ※
 加藤邦昭 化学の技術史 オーム社※
 井上祥平編 有機資質の化学 化学増刊90 化学同人※
 吉田忠雄 環境保全の化学技術 丸善※
 柳田博明 セラミックスの化学 同 ※
 倉地守 環境科学概論 共立出版※
 北山直方 図解伝熱工学の学び方 オーム社
 竹中俊夫 SIの使い方 同
 小笠原一 ベーシック入門 山海堂
 加藤清 6009ハンドブック アスキー出版
 藤本和雄 電子材料の化学 丸善※
 小松定夫編 鋼構造の補剛設計 森北出版
 本山義 新しい道路土工指針に基づいた仮設構造物の設計法と実例 近代図書
 金子敏夫 機械技術者のための図解サーボ技術入門 日刊工業新聞社
 村越康治 マイコンコンピュータの基本ソフトウェア実習CP/M アスキー出版

戸川隼人
マイコンによる有限要素解析 培風館
Rodnay Zaks
標準CP/Mハンドブック アスキー出版
北山直方
図解演習熱力学 オーム社
続・図解熱力学の学び方 同
佐々木彬夫他
F-BASICを使いこなす 工学図書
塩治隆太郎
エネルギー工学のための伝熱工学の基礎
オーム社
西川美穂
伝熱学 理工学社
後藤幸二
ソーラシステム 日刊工業新聞社
大久保陽一
機械に知力をつける制御用マイコン初歩から応用まで 同
竹中俊夫
機械工学必携 朝倉書店
伊藤達司
電子機器の熱対策設計 日刊工業新聞社
戸川隼人
有限要素法へのガイド サイエンス社
宗 孝
使用実績に基づく機械要素の实用設計 日刊工業新聞社
同
实用機械設計法 同
阿部芳則
機械設計法入門 共立出版
春日保男
機械要素と生産加工 同
坂水邦彦
マイクロコンピュータの内部構造と機械語
CQ出版社
水野瑞也
実証的エレクトロニクス工作技術 同
藤生良治
抵抗コンデンサの使い方 同
猪飼国夫
インターフェース回路の設計 同
協英世 FM 8 操縦法入門 ラジオ技術社
近藤龍太郎
アップル操縦法入門 同
藤止意他
周辺装置の製作 アスキー出版
近藤次郎
数学モデル 九喜
町田輝史
図解材料強化学の学び方 オーム社
多谷虎男
力学におけるテンソル変分解析・上・下
学会出版センター
P.C.L.クロックストーン
プログラム学習による構造力学・材料力学
入門 森北出版
村崎康治
実習CP/M アスキー出版
Rodnay Zaks
標準CP/M 同
佐藤勝夫
BASIC(PC-1500)による土木技術者
のためのプログラミング計算マニュアル
山海堂
現代測量学・測量計測概論 2
日本測量協会

森北土木工学全書
19 測量工学 森北出版
ブルーバックス
514 スペースシャトルの科学 講談社※
新体系土木工学
9 構造物の歪曲・安定解析 技報堂出版※
32 鉄筋コンクリートの力学 同 ※
59 土木景観計画 同 ※
Mechanics of Fatigue ASME
Proceedings of The Sae Fatigue
Conference SAE
Schueller
Einführung in die Sicherheit und
Zuverlässigkeit von Tragwerken
Ernst & Sohn
Toshio Mura
Micromechanics of Defects in
Solids Nijhoff
G.C.Sih
Defects and Fracture 同
S.Tukasiewicz
Local Loads in Plates and Shells
Sijthoff & Noordhoff
A.Cemal Eringen
Elastodynamics vol 1 Linear Theory
Academic Press
M.Onoe K
Progress in Acoustic Emission
日本非破壊検査協会

産 業

青木武雄
土地と建物の計量単位換算表
森北出版

芸 術

佐藤彰良美術集 現代美術社
中国の美術
3 絵画 淡交社
日本古寺美術全集
8 靈生寺と南大和の古寺 果英社
24 妙心寺 同
日本水彩画名作全集
4 岸田劉生 第一法規出版※
8 名作選 昭和 同 ※

語 学

漢語成語詞典 上海教育出版
大杉邦三
英語の敬意表現 大修館書店
多田幸敏
英語動詞活用辞典 同
長崎玄弥
ペーパーバックが読める グロビュー社
河上道生他
英作文参考書の誤りを正す 大修館書店
諸橋敏次
漢漢和辞典 下巻 同 ※
中村保男
翻訳の秘訣 新潮社※
西田大一郎

漢文の語法 角川書店
上野恵司他
中国語手紙の書き方辞典 東方書店
渡部昇一
ことば・文化・教育 大修館書店
新村出編
広辞苑 岩波書店
ペーターブラウン
現代ドイツ語の傾向 明星大学出版部
田中梅吉
総合詳説日独言語文化交流史大年表
三修社
古川美夫
英文法詳説 文建書房
大杉邦三
会議英語 大修館書店
多田幸敏
英語動詞句 同
ブルーバックス
512 日本語ワードプロセッサ入門 講談社※
国弘正雄自選集
1 異文化のかけ橋として 日本英語教育協会
3 語学のすすめ 1 同
日英語比較講座
1 音声と形態 大修館書店
2 文法 同
3 意味と語彙 同
4 発想と表現 同
5 文化と社会 同
Geoffreg Land
Picture Stories for Composition
Evans Brothers Limited

文 学

高橋健二
グリム兄弟 新潮社
外山盛比古
大人であることの面白さ PHP 研究所※
石原健太郎
亡国・上・下 角川書店※
岡俊一 歩いて来た野ざらし紀行 和泉書院※
森 敦 わが風土記 福武書店※
斉藤祐成
シェクスピア名言集 大修館書店
吉田敬一
中国文学における対句と対句論 風間書房
福原麟太郎随想全集
8 書翰・日記 福武書店※
ロマン罗兰全集
32 マルヴィーダフォン・マイゼンブーク
への手紙 ルイジレ・ロマン罗兰在漢
書簡 みすず書房※
39 挨拶と友情・崖から崖へ・伯爵様 同 ※
講座英米文学史
1 詩 1 大修館書店
3 同 3 同
8 小説 1 同
10 同 3 同

読んでみませんか (新着書から)

現代の宇宙像

G. T. バース編 地人書館刊
(数学科 山形 弘道)

1931年ジャンスキーによって天の川からの電波が発見され、宇宙は可視光のみによる観測から開放された。

現在では、マイクロ波、赤外線、紫外線、X線さらにガンマ線の領域でも観測されるようになった。

その結果、はるか遠方において強力なエネルギーを発しているクェーサー、数分の一秒程度の規則正しい周期で電磁波を出す星パルサーなどが発見され、天文学はいちじるしい発展をとげ、中性子星、ブラックホール、ビックバン、重力波、ニュートリノ等々、新しい宇宙像が着々と出来上ってきた。この本はそのような天文学の最新の結果、「現代の宇宙像」を各専門家が書いている。

内容は少し難解であるが、宇宙について知りたい人はじっくりと読んでみてはどうだろうか。

近代天文学の夜明け —ウィリアム・ハーシェル—

齊田博著 誠文堂新光社
(数学科 山形 弘道)

ウィリアム・ハーシェルは18世紀末イギリスはバース市の音楽界で最高の地位にあった音楽家です。彼は和声学から数学へそして光学、天文学へと興味を進め、「天界の構造」を明らかにすべく、世界最大級の反射望遠鏡をつくり、8等星までの星の位置測定をはじめました。そして1781年3月1日、天王星を発見し、有史以来惑星は6個であると誰もが信じていた太陽系を大きく広げたのでした。その後彼は世界中で最も優れた望遠鏡製作者として数百台の望遠鏡をつくり、銀河系がレンズ形であることを観測から推察しました。

近代天文学は偉大なアマチュア天文家ハーシェルによって200年前のまさにこの時、夜明けを迎えたのです。本書は天文史家齊田博によるユニークな評伝。

(1) 模型からの発想

江守一郎著 講談社(ブルーバックス)

(2) 模型実験の理論と応用

江守一郎・D・J・シューリング共著 技報堂出版
(機械工学科 渡辺 敏夫)

工学の中で現象の再現は重要な問題の一つである。ある物理現象を解析するため実験を行うが、その実験

に実物を用いることが不可能であったり、高価で非常に難しい場合には模型を用いて実験を行うことになる。その実験に際し重要な「相似則」について、(1)の著書では著者の経験を折りまぜながら、一般の人や工学を志す諸君たちにも興味をもって読めるよう、わかりやすく解説し、(2)の著書では、その原理からくわしく解き明かし、専門的な模型実験を行うため十分役立つように書かれている。著者の江守氏はNHKの「科学ドキュメント」の放送の中でも何回も登場し、模型実験を行っているから、記憶している諸君もあろうと思う。

今後このような分野の重要性が高まる中で、ぜひ勧めたい本である。

電子デバイスプロセス 西永 頌著 コロナ社
(電気工学科 鴨沢 勲郎)

① 本書は、各学校の多彩なカリキュラムに応じた選択が可能にした。

② 全体として“少し教え、多く考えさせる”よう配慮した。

③ 記述は、原理的・基本的事項の解説に重点を置き、平易に表現した。

④ 高度な内容ほど学生に分り易いよう、配列順序と説明方法を工夫した。

⑤ それぞれの学問分野が、どのようにして現状に達したか、この発展過程を重視した。

⑥ 大切な箇所は幾通りも説明し、あるいはヒントを与えて学生に考えさせるようにした。

⑦ 原理的な事柄を述べた後は、それが、どのように応用されているかを例示した。

本書の特長は上の如くであるが、ぜひ一読をすすめたい。

現代化学シリーズ 24

有機反応機構(上・下)

P・SYKES著 東京化学同人 久保田尚志訳
(工業化学科 青柳 克弘)

有機化学を暗記の学問であると考え違いをしている学生諸君にぜひとも読んでもらいたい本です。

有機化学は、あくまで基本的には実験科学の一つで

あり、実験の結果出た事実のみを重要視する傾向にあったことは確かです。しかし、有機化学の理論の発展、特に反応機構の研究の集積は、今までの考え方を一変させました。これから有機化学を勉強していく人にとって大切なことは、事実を学び、その補いとして知らねばならない理論を学ぶことだといわれています。そのためには、電子論、量子論等の知識も必要ではありますが、理論を学ぶことにより多くの事実を合理的にまとめることができ、暗記の必要性も少なくなってくると思います。

この本は、以上のような意味からもすばらしい本で特に3年生以上の学生に勧めたいと思います。

無機化学(上・下)

F・A・COTTON・G・WILKINSON 著

中原勝儼訳 培風館

(工業化学科 青柳 克弘)

最近の無機化学の発展はめざましいものがありますが、それを簡潔にまとめた良い本が少ないといわれてきました。そこで登場したのがこの本です。程度は多少高いかもしれませんが、一度、無機化学を簡単に勉強した経験があり、さらに知識を深めようとする人には最適だと思います。工業化学科の4、5年生に特に勧めたい本です。私は、学生時代、有機合成化学の研究室にいましたが、境界領域の研究をしていたこともあって、無機化学を勉強する必要にせまられ、この本の原書を読みました。そのとき、非常に良い本だと思ったのでここで紹介したのですが、他の分野の人が、無機化学を知りたくて勉強する場合にも良い本だと思います。

ソーラーシステム研究グループ著「都市の水循環」

NHKブックス

(土木工学科 橋本 孝一)

「毎日飲む水はどこから来たのか、使った水はどこへ行くのか」と問われて、あなたは正しく答えられるでしょうか。台所や風呂場などで使った水が側溝から河へ流れ込んでおり、そのような河川水が水道水源になっていると知ったらあなたは思うのでしょうか。

ソーラーシステム研究グループのメンバーは、東京都下の区役所に勤務している20~30代の若い技術系職員で、地域社会のソーラーシステムを考えようというところに端を発して水問題にかかわってきた人達です。彼等は、現地に足を運び、水問題の所在を肌で感じとりながら、討議を重ねてまとめたものがこの本です。汚れていく水源に対して、下水道の実態に対して、鋭く問題提起し、それではどうすべきかについて模索し、一つの考え方として「個人下水道」を定式化しています。

私は、この本を通じて水問題の所在を知ると同時に、問題解決に迫ろうとする意欲と手法を汲み取ってもらえれば、「技術者の眼」を養う上でも大いに参考になるものと考えます。



当館のあゆみ

(57.11~58.2)

57. 11. 15 ビブリア第48号を発刊
12. 24 冬休み特別貸出し
58. 1. 12 閲覧室の額絵を交換
1. 20 第4回図書委員会

1. ビブリア編集案
2. 共通図書選定
58. 1. 24 5年生にアンケート
「下級生に読ませたい本」